

- 主 文
理 由
- 一 本件抗告を棄却する。
 - 二 抗告費用は抗告人の負担とする。

第一 本件抗告の趣旨及び理由

抗告人は、「原決定を取り消す。相手方の申立てを却下する。申立費用は第一、二審とも相手方の負担とする。」との裁判を求め、その理由として別紙抗告理由書及び抗告理由補充書（二通）のとおり主張した。

第二 当裁判所の判断

一 抗告理由中本件執行停止申立てがその利益を欠き不適法である旨の主張について

1 記録によれば、次の事実が認められる。

（一） 相手方は、平成八年一月二八日施行の川島町議会（抗告人）議員選挙に立候補し、一票差の次点とされたが、異議・審査手続及び訴訟の結果、最下位当選者とされていたAと得票数が同じであるとされたことから、公職選挙法（以下「公選法」という。）九五条二項の規定に基づき、平成九年七月六日、くじにより当選人と定められ、抗告人の議員（任期は平成一二年二月一〇日まで）となった。

（二） 抗告人は、平成一〇年一月一九日の臨時会において、相手方が、平成九年一二月一六日の定例会で行った一般質問の際、「解放同盟はえせ同和行為だ」などと部落差別を助長する発言をしたこと及び特定の業者名を挙げてその利益を誘導する発言をしたことを理由に、相手方を除名する旨の懲罰（以下「本件除名処分」という。）をした。

（三） 抗告人の議長は、公選法一一一条一項三号の規定に基づき、平成一〇年一月一九日、川島町選挙管理委員会（以下「町選管」という。）に対し、本件除名処分により議員の欠員が生じた旨の通知（以下「本件欠員通知」という。）をした。

（四） 町選管は、公選法一一一条二項の規定に基づき、当該選挙長に対し、右欠員の旨を通知し、同選挙長は、同法一一二条五項並びに八項及び一〇一条の三第一項の規定に基づき、平成一〇年一月二三日、選挙会を開き、繰上補充によりAを当選人と定めた上、その旨を町選管に報告し、町選管は、同法一〇一条の三第二項の規定に基づき、同日、右の定めを告示した。

（五） 相手方は、地方自治法二五五条の三の規定に基づき、平成一〇年二月六日、徳島県知事に対し本件除名処分取消しの審決を申請したが、同年五月一日これを棄却されたため、同年七月一日、本件除名処分の取消しを求める訴えを提起し（徳島地方裁判所同年（行ワ）第一〇号事件。以下「本案事件」という。）、併せて、同月三十一日、本件除名処分の効力停止を申し立てたところ、本件除名処分の効力を本案事件の判決確定に至るまで停止する旨の原決定がされた。

2 ところで、行政事件訴訟法二五条二項に基づく処分の効力、処分の執行又は手続の続行の停止（以下「執行停止」という。）は、処分の効力それ自体あるいはその執行力又は手続の続行の基礎となる効力がない状態をもたらす（形成力）、かつ、当事者たる行政庁その他の関係行政庁を拘束する（同法三三条四項、一項）ところ、その効力は将来に向かってのみ生ずるものであり、執行停止自体の効力によっては、執行停止がされる前に当該処分を前提として既になされている後続処分及びこれによって形成された法律関係の効力に対して何ら影響を及ぼさないと解される。本件においては、前記のとおり、原決定がされる前に、法定の手続きを経て、繰上補充によりAが当選人と定められたのであるから、原決定は、右の定めによりAが抗告人の議員たる地位を取得した法律関係自体に対して何ら影響を及ぼさないというべきである。そして、抗告人の主張するように、Aが抗告人の議員たる地位を確定的に取得したことにより、本件除名処分の効力を停止しても、法律上、相手方が抗告人の議員たる地位を回復する余地が全くないと解されるのであれば、本件執行停止申立ては、その利益を欠き不適法とされる余地がある。

しかしながら、執行停止は、将来に向けてその対象となった処分の効力がない状態に置くものであるから、当事者たる行政庁その他の関係行政庁は、執行停止の有する前記拘束力に基づき、将来に向けて執行停止の趣旨に従って行動すべき義務を負うのであって、当然にはそれまでに生じた状態を原状に回復すべき義務を負うことにはならないものの、執行停止後において当該処分の効力があるような状態を存続させることは許されず、そのような状態があればこれを将来に向かって排除し、処分の効力がない状態をもたらすための措置を講ずるべきものと解するのが相当であり、そのように解しても、執行停止に遡及効がないことと何ら矛盾するものでは

分、か、き、選、よ、を、
 処、よ、る、か、き、選、よ、を、
 名、に、あ、れ、す、り、と、つ、定、め、
 除、定、で、さ、解、よ、こ、が、た、あ、
 件、決、の、許、と、に、る、た、し、で、
 本、原、は、の、充、れ、し、と、き、
 し、が、こ、う、上、回、る、選、う、
 対、が、お、く、負、繰、撤、あ、当、い、
 に、あ、る、に、お、く、負、繰、撤、あ、当、い、
 管、あ、る、に、お、く、負、繰、撤、あ、当、い、
 選、あ、る、に、お、く、負、繰、撤、あ、当、い、
 町、の、状、し、義、づ、通、合、い、う、
 て、も、い、置、き、基、員、筋、き、を、
 通、じ、た、な、放、す、知、件、き、づ、
 を、を、力、が、を、す、知、件、き、づ、
 長、知、効、状、撤、回、通、本、に、き、
 議、通、の、た、を、欠、は、さ、束、す、
 は、員、分、れ、た、を、欠、は、さ、束、す、
 人、件、名、が、員、た、の、無、定、無、
 告、本、件、除、知、欠、し、の、決、て、
 抗、本、件、通、知、欠、し、の、決、て、
 と、旨、本、件、通、知、欠、し、の、決、て、
 る、た、れ、欠、に、抗、か、向、か、
 じ、あ、れ、欠、に、抗、か、向、か、
 生、は、本、件、通、知、欠、し、の、決、て、
 が、で、は、直、は、あ、る、に、向、
 つ、い、て、み、る、と、旨、本、件、通、知、欠、し、の、決、て、
 件、に、欠、員、が、生、じ、た、れ、欠、に、抗、か、向、か、
 本、件、に、欠、員、が、生、じ、た、れ、欠、に、抗、か、向、か、
 を、抗、告、に、向、か、し、て、は、A、は、あ、る、に、向、
 こ、り、を、抗、告、に、向、か、し、て、は、A、は、あ、る、に、向、
 によ、り、決、定、あ、る、と、選、管、し、

3 以上の次第で、相手方が抗告人の議員たる地位を回復するについて何ら法律上の障害はないから、本件執行停止申立ての利益は認められるというべきである。

当裁判所も、本件除名処分の執行停止をすることについて、相手方に「回復の困難な損害を避けるための緊急の必要がある」（行政事件訴訟法二五条二項）場合に当たり、かつ、「本案について理由がないとみえる」（同条三項）場合に当たらないと判断する。その理由は、原決定の理由二に記載のとおりであるから、これを引用する（但し、原決定六頁七行目の「できず、」から同八行目の「予定されている」までを「できなかった（九月議会は原決定に伴う議員定数超過問題により流会になった。）」と改める。）。

一 よって、原決定は相当であって、本件抗告は理由がないからこれを棄却することとし、主文のとおり決定する。

高松高等裁判所第二部
裁判長裁判官 山脇正道

裁判官 田中俊次
裁判官 村上亮二